

わたしたちは、最初の確信を最後までしっかりと持ち続けるなら、キリストに連なる者となるのです。
ヘブライ3章14節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
下 窄 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤木 博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148

よきおとずれ

CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

▼教区辞令
三ツ山教会主任司祭
古川武信師は病氣治療のため入院中です。それに伴い次の辞令が発令されました。
(10月8日付)
尾高修一師
三ツ山教会主任代行



島原・天草 殉教者記念の集い 聖体行列とミサ

10月9日、島原・天草殉教者記念の集いが開催、原城本丸跡でのミサ=写真=と二ノ丸跡までの聖体行列が行われた。島原教会(山田良秋主任司祭)と天草崎津・大江教会(牧山美好主任司祭)主催。「そして光があった～新たな創造の時を迎えて～」をテーマに、殉教者たちへ、そして東日本大震災とそれによって引き起こされた原発事故の被害からの一刻も早い再生を願って祈りがさげられた。

10月9日(日)カトリック長崎大司教区教区評議会臨時総会が高見三明大司教参加のもと、カトリックセンターで開催された。今回の開催は、7地区地区長司祭と教区本部事務局次長、教区会計、信仰養成部長、福音化推進部長、教会奉仕者等養成部長、広報委員会委員長、家庭特別委員会委員長を役員とするのが主な目的。7地区長以外は新



たに常任役員会のメンバーとなり、役員会に提出・提案する諸事項の協議に当たる。
教区評議会の目的は「教区内のすべての小教区並びに地区が連携、一致、協力して、教区全体の宣教・司牧活動を推進していくことである」が、役員として地区長や各部長が名を連ね、協議や決議に参加することで、聖職者と信徒が一体となった教区全体の宣教・司牧活動がさらに推進される体制を整えたことになる。
また、議題とは別に、長崎教区代表者会議(教区シノドス)に関する報告と東日本大震災対応のための長崎教区サポートセンターの活動報告も行われた。
担当窓口の古木真理一

師は、長崎教区サポートセンターがカリタスジャパン、仙台教区と共同で岩手県大槌町にボランティアのためのベースキャンプ立ち上げを準備していること、今後継続してボランティアを募集していることを報告し、教区評議会に協力を要請した。

教区評議会臨時総会 「教区全体の宣教・司牧活動」目指し体制整える

「楽しかった、また来たい」 神学院1泊体験入学

神学院1泊体験入学



10月15日から16日にかけて、長崎カトリック神学院の1泊体験入学が行われ、長崎教区・福岡教区から22人の子供たちが参加した。

まずはレクリエーションを通して互いの交流を深め、食事などをしながら、神学生たちと共に楽しいひとときを過ごした。2日目は神学生による召命の話があり(写真)、神学生たちは「ぜひ神学

校に入ってほしい」と呼び掛けていた。参加した子供たちのほとんどが「楽しかった、また来たい」と語り、入学したいという声も聞こえてきた。すでに2ヵ月後の南山学園の入試を受け、神学院への入学を希望している子供もいて、神学院一同から、待つてると、との声が掛けられていた。関係者は「体験入学をきっかけに、さらに多くの司祭召命の実りがあるように祈りたい」と話している。

スポーツの秋! 司祭団ソフトボール大会



優勝した五島チーム = 9月27日佐世保市にて =

17人が
クルシリストに
128回クルシリヨ
第128回クルシリヨが9月22・25日、青方教会カトリックセンターで、中村倫明師の指導のもと8小教区9教会17人(男性5、女性12)が参加し開催された。
参加者は事前説明を受けないため、クルシリヨでどんなことが始まるのか不安があったようだが、最後は皆晴れやかな笑顔

11月23日
映画上映会と
小教区広報
担当者の集い
SIGNIS JAPAN
(カトリックメディア協議会)が選定した第35回日本カトリック映画賞受賞作品「月あかりの下で」がある定時制高校の記

で最終日を迎え、修了生である「クルシリスト」となった。参加者の1人は、「堅信式と結婚式の後、特別な練習を受けたことがなかったが、このクルシリヨで照らしを受け、何か小教区のために役に立ちたいと思うようになった」と語った。
研修後の懇親会「アガベ」では、すでにクルシリストとなつて先輩たちからの大歓迎を受け、新しいクルシリストを受け入れて今後の盛り上がりをお願いする声が上がった。
参加者は次の通り。
大曾1、青砂ヶ浦3、丸尾3、曾根2、鯛ノ浦2、浜串1、大浦(桐)2、土井ノ浦1、有福土井ノ浦)2

1. 家庭特別委員会の目指す方向性・取り組みについて
長崎大司教区の第4期活動目標と活動計画にありまますように、家庭特別委員会は結婚と家庭に関する神の計画を述べ伝えることを使命とします。
人々が十分な活力を取り戻し、人間としてキリスト者として確かに成長できるように助け、社会と神の民の刷新に尽くすことができるように、各部・各委員会と連携を取りながら、キリスト者の家庭の役割を果たせる家庭づくりを目指すものです。
2. 現代のキリスト者の家庭が社会や教会において望まれること
キリストは「信徒を証

再び家庭を振り返る ②
長崎教区家庭特別委員会 古木真理一

人に定め、信仰の心とことの恩恵を授けられて福音の力が家庭と社会の日常生活の中に輝きわたるようにされました」。(使徒言行録2・17・18参照)
家庭が置かれている今の状況には、キリストの救いのしるしが実践されたいり、神の愛に拒絶のしるしが見えたりしています。一般的に信徒は、精神的、物質的にお互いに助け合うために家族間の関係を深めていく必要性や、家庭固有

の教会的使命、より正しい社会建設のための家庭の責任があることを自覚しています。
しかしながら誤った自立の概念や、親子間の権威における誤解、離婚、中絶や避妊を当然とする考え方があり、こうした否定的な現象の根底には、自由という理念を、結婚と家庭に対する神の計画の真理を実現していくためではなく、利己的な幸せのために、しばしば他人を否定するようないく必要や、家庭固有

方があります。
人間の歴史は自由と自由の闘いの葛藤の歴史です。「自己」を顧みないままの神への愛と神をなおざりにするまでの自己愛との葛藤(聖アウグスチヌス)なのでしょう。このために、信仰に根ざした愛の教育が大切なのです。どれほど神に愛されているかを実感できる人は喜びの生活ができます。わたしたちと神との親しさ、家族とのきずながどれほどのものか見つめ直すときが来ています。

東日本大震災復興支援 ボランティア募集!

募集期間:平成23年10月~平成26年3月

岩手県上閉伊郡大槌町にある「寿ビジネスホテル」ベースキャンプを長崎教会管区の拠点として本格的に活動を行います。
長期・短期のボランティアを募集、ご応募お待ちしております。

お問い合わせ先:長崎教区サポートセンター
〒852-8113 長崎市上野町 10-34 カトリックセンター内
(TEL) 095-842-4450 (FAX) 095-842-4460
(E-mail) naspoi@yahoo.co.jp
(窓口) 古木真理一神父
長崎教区福祉委員会ボランティアネットワーク

憶」が、11月23日(水、祝)にカトリックセンターホールで、11時から14時からの2回上映される。
チケットは一般700円、シニア(60歳以上)・小中高大学生500円。問い合わせはカトリックセンター Tel 095(842)4246まで。
また上映会に合わせて、長崎教区広報委員会では「小教区広報担当者の集い」を同じく11月23日13

時からカトリックセンターで開催する。現在、小教区主任神父と小教区広報担当者に向けて、集いへの参加と「教会の広報活動に関するアンケート」への回答協力を呼び掛けている。
10月に小教区あてに案内した参加申し込みとアンケート回答の締め切りは、11月7日(月)まで。問い合わせは広報委員会 Tel 095(843)3869まで。

よきおとずれの「謹賀新年」は、司祭名の一覧表である。教区司祭で、5つのサンプルを拾い、考えてみた。サンプルは、1970年、80年、90年、2000年と2010年。教区司祭数は70年が76人、以降78人、86人、102人、103人。70年が銀祝以上は21人、銀祝未満が55人、以降は36人と42人、43人と43人、54人と48人、51人と52人▲派遣司祭は70年1人、以降3人、3人、9人、15人。司祭の数がぐっと増えたのは、1981年の教皇ヨハネ・パウロ2世来日が大い。81年前後の神学生が、5年、10年、15年後に実を結んだ結果である。そこしか司祭の急増はない。銀祝を迎える前の司祭の数は、銀祝後の司祭の数と拮抗している。会社で考えると、長年務めている社員の多い会社はそれだけ人件費がかかり、体力が失われていく▲長崎教区司祭にそのままだではめることはできないが、司祭は実際コストがかかっている。現在司祭数は100人を超えているが、派遣司祭の数と、引退司祭の数を考えると、実際には足りていない▲実現可能かは別として、3つ提案したい。司祭はミサの奉納金(謝礼)から3000円だけ受け取り、あとは教区に送金する。病気にではなく健康のためにお金を払う。具体的には定期的な健康診断や人間ドック。最後に、300万円以上の買い物しない。そうすれば、教区の体力は回復すると思う。(K・N)

よきおとずれの「謹賀新年」は、司祭名の一覧表である。教区司祭で、5つのサンプルを拾い、考えてみた。サンプルは、1970年、80年、90年、2000年と2010年。教区司祭数は70年が76人、以降78人、86人、102人、103人。70年が銀祝以上は21人、銀祝未満が55人、以降は36人と42人、43人と43人、54人と48人、51人と52人▲派遣司祭は70年1人、以降3人、3人、9人、15人。司祭の数がぐっと増えたのは、1981年の教皇ヨハネ・パウロ2世来日が大い。81年前後の神学生が、5年、10年、15年後に実を結んだ結果である。そこしか司祭の急増はない。銀祝を迎える前の司祭の数は、銀祝後の司祭の数と拮抗している。会社で考えると、長年務めている社員の多い会社はそれだけ人件費がかかり、体力が失われていく▲長崎教区司祭にそのままだではめることはできないが、司祭は実際コストがかかっている。現在司祭数は100人を超えているが、派遣司祭の数と、引退司祭の数を考えると、実際には足りていない▲実現可能かは別として、3つ提案したい。司祭はミサの奉納金(謝礼)から3000円だけ受け取り、あとは教区に送金する。病気にではなく健康のためにお金を払う。具体的には定期的な健康診断や人間ドック。最後に、300万円以上の買い物しない。そうすれば、教区の体力は回復すると思う。(K・N)

2014年開催

「教区代表者会議
(教区シノドス)」とは

2015年は信徒発見150周年。この機会に長崎の教会の歴史や信徒発見後の歩みと現状を振り返り、「長崎教区を将来に向けて具体的にどうするか」を教区全体で考えようと、「長崎教区代表者会議(教区シノドス)」を2014年に開催する方向で今、準備が進められている。今年度は小教区を中心に話し合い、来年度の地区レベルでの話し合いへとつないでいく。実際のところ「身近に感じられない」という声も聞かれるが、10月下旬以降、各世帯に届けられる「教区代表者会議(教区シノドス)」に向けてのアンケート「などを通してより身近なものとなっていくことを期待する。教区シノドスについて教区長・高見三司大司教にあらためて話を聞いた。(編集部)

「そもそも「シノドス」とは何ですか？」

教会の歴史の中で、世界の司教たちの会議を「公会議」と言っているが、地域の司教会議(教会会議)はシノドスと呼ばれた。シノドスはもとギリシア語の「syn」「共に」という意味と「hodos」「道」のこと。これが一つになって「シノドス」。つまり「一緒に道を歩く」。共に集まって会議をして前に進む、ある方向に向かって一緒に歩くと意味する。教区全体が一つになって話し合いをし、どの方向に向かうかを自分たちで決めます。

「開催した時のイメージが浮かびませんが」

教区シノドスは教区の代表者が集まって会議をすること。それが1回で終わるといいますが、非常に重要な内容を議論して結論に至らないことも考えられます。あくまで案ですが、2014年5月3日から5日まで開催し、また集まる必要がある



教区シノドスについて語る高見三司大司教
＝2011年10月4日 長崎大司教館＝

れば次は7月。それでもまだだったら9月。最後は11月を4回目としています。韓国の大邱教区は、1997年11月の教区シノドス開幕から99年10月の閉幕まで2年の間に3回、総会を開いています。そして35の提案が出て、どの提案に優先的に取り組むかについての投票は第三次総会の翌日に行われたということです。これもその前段階があつて、小教区、地区、教区レベルで話し合っています。長崎教区シノドスでは、教区、地区、男女修道会、婦人会、中学校、青年、教区評議会などの各代表

「開催の目的は何ですか？」

今、長崎教区が何を必要としているのかをみんなで考えてもらいたい。当面は会議そのものを目標としますが(会議は新しいスタートとなります

が、それに至る話し合いもとても重要です。わたしは教区ビジョンとして「参加し、交わり、宣教する教会」を打ち出しましたが、例えば、もう少し具体的に「何を

つて」参加し、交わり、宣教するのか。長崎教区がどの方向に、何をしながら進んでいくのかを考えたための会議が必要。そして、いろんな話し合いは信仰教育にもなっていくんですね。自分の信仰について考える、議論する、反省する、折る。シノドスを体験した教区も、決してスムーズにいった訳ではないと言っています。しかし、それでも最後には何か生まれてきた。話し合つて1つの方向性を決めるという点では「MOE」(1987年と93年に開催された福音宣教推進全国会議)と似ています。広島教区もシノドスを開催(2005年)し、たつた1つ決めたのは「平和の使徒になろう」でした。教区全体で平和の使徒になろうと考えた。長崎はどう向かうのか、ある意味で楽しみ、ある意味で不安でもあります。わたし自身も教区シノドスは初めての経験ですから。

「各世帯に配られるアンケートは、どんな動きにつながるのですか？」

アンケートの結果が各小教区からシノドス事務局に届いたら、その集計したものをも再度小教区に返し、また考えてもらいます。話し合ってもらいます。この際大事なものは、「司祭や役員に全部おまかせ」ではなく、一人一人の、すべての信者が、抱

えている問題や信仰に生じる喜びなど一言でもいから意見を出してもらうこと。それを小教区でまとめ、地区に持つていきます。そして地区に持つていったら「これでわれわれの役目は終わった」というのではなく、かわつていく意識を持ち続けてほしい。そのためには、今、教区はどういうところかという話し合いがあつていのか、「よきおとずれ」などを通して絶えず情報を共有し、コミュニケーションをとることが必要でしょう。

「教区の一致を実感できるというのですが」

教区というのはひとつの教会と思つたらいいのです。普段あまり意識していないかもしれないが、71小教区全体が「長崎教区」というひとつの教区をつくつています。小教区の話し合いの中で、家庭、結婚、信仰、さまざまな問題について意見が出るかもしれない。個々の小さな問題は小教区で解決できるものもあるかもしれないが、どの小教区でも共通している問題だとして、これはこれをシノドスで大きな問題として取り上げよう」となるかもしれない。問題の根っこに大きな原因が隠れているのかもしれない。わたし自身も信者さんたちの悩み苦しみを分かち合いたいと思っています。

開催については、反論や異見も恐らくあると思います。これまで牧者のイメージは、司教が何か提言したらみんながついていく、という1つのイメージがありました。

「信徒発見150周年という節目にあつた開催というのは分かりますが、あえておたずねします。なぜ「今」なのでしょう」

何かをやる時、突然ふつてわいたように提案するとそれこそ「なんで今か」となります。人間というのは誕生日や正月、いろんな節目を大事にします。気持ちを整えたいところからスタートしたい、そうして前に進めるのだと思います。信徒発見から150年というのは大きな節目。約260年にわたる迫害、1873年に高札撤去になって実際に、信仰を守る、信仰を伝えることが自由になる時代になりました。その後信者は増え、1960年代にピークを迎えておよそ8万人に達しましたが、徐々に減り、今は6万3千人をきり、減る一方です。数だけが問題ではないけれど、それはひとつのしるしでもあるのです。

移住や少子化で全体が減っているのも事実ですが、最大の理由は、長崎は求道者が少ないということです。他教区は長崎と違って成人洗礼者が多い。このことについて問題意識を持つべきだと思います。今の長崎教区の現状をみんながどう見るかということ。誰も意識しなければこのままです。たまたまわたしの代になって、こういう(150年という)機

「問題意識を持つことから始まるのです」

そうですね。ゆっくり考えていく。そしてそれは時間をかけないといけないこと。だからこの1年間は小教区でじっくり考えてくださいと言っています。話し合いは月1回でも大変かもしれない。どのように話し合うかはそれぞれだと思います。例えば各地区・班でこういう問題について話してくれませんか、と。それから持ち寄ったものを信徒総会のようなものがあればそこで出して、評議会にかける。

繰り返しますが、一人でも多くの信者さんが意見を出してほしい。そこから問題に気付くことができると思います。

「開催まで期間があるため目的を見失いそうです。どのように考えたらよいでしょうか」

長崎の信者の信仰には、列福式の時のボランティアの皆さんの働きにも見られたように、神さまのため、すべてをおいてさげたいという強い、い意味での深い根を感じます。400年受け継がれたもの、独特の雰囲気やつばりがあると思う。それはわたし自身もあらためて感じてきています。一方で、迫害時代は隠れながら必死で神さまに祈り、信仰をまさに心の内に秘めながら守り、保ち、子から孫へと伝えなければなりません。現状ではさまざまな理由

「から子へ孫へ伝えることすら危うくなつてきています」

150年。信仰が自由になつて「もう」150年です。あこがれて待ちに待った信仰の自由が得られて150年たつたのに、自分たちの信仰を外に向けて伝えるという努力がまだ十分でないのです。イエスさまはすべての人を弟子にしない、すべての人に福音を伝えなさい、とおっしゃいました。1人でも多くの人に伝える。これは神父だけの仕事でもシスターだけの仕事でもない、全信者の務めです。第2バチカン公会議は「本質的に教会は宣教する共同体だ」と繰り返しています。一人一人に、キリストの福音を他の人に伝えるという義務、使命があります。

信仰生活と社会生活は重なり合っていないければなりません。島本大司教さまもおっしゃった、「宣教する共同体を目指して」の祈りをわたしたちは唱えています。そしてそれは祈るだけではいけない、行動しなければ。ヨハネ・パウロ2世教皇さまの言葉にあります「過去を振り返るということは将来に対する責任を担うこと」なのです。150年の節目の意味はまさにそれです。そのことを心に留め、教区シノドスに向けて、時間をかけて準備していくべきだと思います。時間はかかるでしょうが、一人でも多くの人にたくさん話さすきっかけを小教区において考えていただきたいと思います。聖霊の照らしと導きを祈っています。

平成24年度 園児・児童・生徒募集
Open School
小中学校
11/19(土)
音楽祭
音楽祭
(小学校) (中学校)
TEL 095-844-2667
TEL 095-844-1549
http://seimaria.net/

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)
24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)4847-7151
844-1420

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湯町586
TEL (0956) 47-4380

聖トマス西と15殉教者祭 西坂～中町教会



声と祈りに包まれた殉教祭だった。教区内外各地から約350人が集まり、共に祈った。

26聖人列聖から150周年を迎える記念のプレイベントとしてアジェンダNOVAなどがさきと長崎大司教区が主催したもので、約1000人が会場に足を運んだ。

アヤラ師(写真内)はスペインが誇る世界

9月25日(日)中町教会で「聖トマス西と15殉教者祭」が高見三司大司教司式のもと行われた。式に当たり、信者らが西坂の丘から中町教会までの道をロザリオの祈りを唱えながら行列し、到着後は教会敷地内にある殉教者の碑の前で司祭団と高見大司教が献花、聖歌と祈りをささげて聖堂でのミサへと続いた。

ミサの説教師を務めた中町教会主任司祭の久志

利津男師は、長崎でも「おくんち」など生活の身近なところにある祭りの存在の意味を説き、この殉教者祭についても「聖トマス西と15殉教者のことを学び、その思いと行動が、聖なる伝統行事として子々孫々に伝えられま

すように」と述べた。聖体拝領時は、普段、中町教会での英語ミサに参加しているフィリピンの方々によるギター伴奏が付き、最後まで大きな歌

26聖人列聖150周年プレイベント バイフオルガンコンサート(浦上)

9月28日(水)浦上教会でイエズス会司祭ホセ・エンリケ・アヤラ・ハルネ師のバイフオルガンコンサートが開かれた。これは来年が日本



最高峰のオルガニストで、これまでに30カ国で1000回を超える演奏活動が続けてきた。今回は「幻想曲とフーガト短調」(J.S.バッハ作曲)や「祈り」(E.トレス)など海外クラシックの他、「長崎の鐘」(古閑裕而)や「二十六聖殉教者賛歌」(新垣壬敏)など全12曲を演奏した。

来場者からは「とても重層で趣がある」「すごく感激した」といった声が聞かれた。公演後、アヤラ師は東日本大震災について触れ、「日本が大震災を乗り越える力は全世界が見ているし、わたしも感動している」と語った。

会場では震災復興への義援金呼び掛けられ約28万円が集まった。

秋の公開聖書講座「御父からわたしたちのもとに遣わされた方」

教区生涯養成委員会主催の「秋の公開聖書講座」が10月2日、カトリックセンターで開催された。今回は木曜日の夜ではなく日曜日の午後で開催され、参加しやすい時間帯だったためか普段より多い聴講者200人余が訪れた。

長崎地区青年会発足準備委員会 代表 宮川広樹さん



現在、長崎地区は北・中・南の3つに分かれていて青年たちの活動もそれぞれだ。「なぜ狭い地区の中に3つの地区があって、バラバラに活動しなければならぬのか」。より力強い活動を目指し、3地区が一つになった「長崎地区青年会」を発足しようと、準備委員会がこのほど立ち上がった。メンバーは社会人を中心とする20人余。来年2012

が小さく見えた。今年6月、「あつちこちミサ」(全国一斉に行う青年ミサ)の準備も、連携を取る上で難しさがあつた。どの集まりにも言えることだが、代表者自身の負担は大きくなりがち。長崎地区青年会ができれば、各地区区を

まわってこれらの取り組みを紹介することも検討中だ。「教会のことを思うと、3地区とも「何かやらなきゃ」という雰囲気はある。教区全体の動きも意識しながら、みんなが『しよう!』という気持ちがないと実現できない。青年自身が、『何ができるのか』『何をしたいのか』を分かっているのかもしません。頼まれたことだけするのではなく、自分から何かをつくっていく喜びを体験してほしい。」

共に活動する仲間はい、準備することが必要。雰囲気はよく、仲がいいですよ。今度12月のクリスマス会では各地区の中高生、青年が参加してのバンド演奏を予定しています。たくさんの方に来てほしい。各小教区を

講座は「御父からわたしたちのもとに遣わされた方」ヨハネ福音書のイエスをテーマに、聖バ

ウロ修道会の澤田豊成師「写真」が講師を務めた。澤田師は初めに「御父とのかかわりを生きておられるキリストが、わたしたちのもとに遣わされた。当然それは御父のすべてをわたしたちの中に持ち込んだということ。これがイエス・キリストという方の存在目的」と語り、イエスが「御父から遣わされた方」わたしたちのもとに遣わされた方』だという2つの点に絞り、約3時間にわたって説いた。

聴講した女性信徒は、「分かりやすかった。御父から遣わされたイエスさまからわたしたちは恵みを受けた。わたしたちもイエスさまに遣わされた者として(神からの招きに)応えるよう努めなければと思った。(講座の中で紹介されたフランシスコ会聖書研究所訳の)新しい聖書を注文したので、今日のお話を思い出しながら聖書を読んでみたい」と話した。

「ぶどう園」
▼教区主催 死者の月・追悼ミサ 11月6日(日)15時 浦上教会
▼イエズス会立山修道院お知らせ ●祈りの一日 ①11月7日(月) ②12月5日(月) ③12月13日(火) 10時〜15時半 ●祈りの日々 12月10日(土)〜11日(日) 初日17時〜翌日の朝食または昼食後 TEL 095(821)4577
▼黒瀬の辻殉教祭 11月13日(日)14時 生月町黒瀬の辻

この教会は、深い入り江の浜辺に囲まれた自然豊かな教会である。

1925年(大正14)8月、桐小教区の巡回教会として、司教代理大崎神父さまによって祝詞献堂された。1965年(昭和40)6月、教会塔の増改修がなされ現在に至っている。内部は折上天井で、側面の壁には十字架の印である4弁のつばきの花模様の飾りを配していることから「つばきの教会」とも呼ばれている。聖堂建設時には25世帯くらいあった集落が、現

1926年(大正15)8月5日創立。それまでは民家を借り受けて聖堂にしていた。信徒は平戸から迫害を逃れて移り住んだ者で、現在は70余人の小さな教会である。一見すると、普通の民家に見え、見過ごしてしまいがちだが、屋根の大きな十字架と入り口の十字架で教会と判別できる。建設当時は教会内は小さい十字架を掲げ

問合先・山田教会
TEL 0950(53)0832
▼129回クルシヨ 11月20日(日)〜23日(水) イエズス会立山修道院
問合先・長浦ヒロ子
TEL 095(871)2910
▼ド・口神父たちが開墾した畑で芋掘り体験 11月23日(水・祝) 10時〜12時 ※雨天時は11月27日(日)に変更。申込方法・①氏名②住所③電話番号を明記の上、左記へ往復はがきもしくはファックスで申し込み。(11月16日消印有効)

申込先・〒851-2322 長崎市西津町2686 出津救助院内
ド・口さまの事務局
TEL 0959(25)1002
▼平戸ザビエル祭 11月27日(日)11時 平戸ザビエル記念教会
▼シンポジウム「被曝」新たな被害をもたらすもの 福島原発について考える 11月27日(日)13時 カトリックセンターホール 教区福音化推進部人権委員会主催

大曾小教区 世界初の洋上石油備蓄基地が見える教会

巡回教会めぐり

桐小教区 上五島で唯一 浜辺に佇む教会

大浦教会 マリアさまの手彫りの

高齡化の進む中にある67世帯で、すべてカトリック信徒である。週日は、毎週水曜日の4時から桐小教区内の小学生の教会学校、その後ミサが行われ、神父さまとシスターから教を学ぶ。

上五島で唯一 浜辺に佇む教会

大浦教会

手彫りのマリアさま

高齡化の進む中にある67世帯で、すべてカトリック信徒である。週日は、毎週水曜日の4時から桐小教区内の小学生の教会学校、その後ミサが行われ、神父さまとシスターから教を学ぶ。

高齡化の進む中にある67世帯で、すべてカトリック信徒である。週日は、毎週水曜日の4時から桐小教区内の小学生の教会学校、その後ミサが行われ、神父さまとシスターから教を学ぶ。

講演会「家庭愛と命の絆」

長崎北地区連合婦人会主催



10月16日、長崎北地区連合婦人会主催の講演会がカトリックセンターで開催され、教区連合婦人会の指導司祭であり、長

崎北地区連合婦人会の指導も務めている大山 繁師(写真)が「家庭愛と命の絆」をテーマに講演を行った。

大山師は、信仰生活における家庭の役割について、家庭は信仰生活のベースであり、夫婦間、親子間の愛が信仰の基本であると語った。また、現

在の家庭が置かれている状況について、子供へ信仰を伝えていくこと、子供が信仰を守っていくことの困難さを取り上げ、家庭で親子共に祈ることの大切さと、子供たちを教会へと導くような祈りが必要だと語った。最後に全員で家庭のための祈りを唱え閉会した。

この講演会は継続開催していく予定で、多くの信徒への参加を今後も呼び掛けていく。

800キロの奇跡 わたしのサンティアゴ巡礼③

川上健治(大野教会)



わたしは退職前に脳梗塞(こうそく)にかかり、若干右足にまひが残る歩き速度が遅く、お昼過ぎにアルベルゲ(宿泊施設)に到着する。それでも、まだ開いていないアルベルゲでゆつくり待つ気にもなれず、次のアルベルゲまで余計に歩いた。それがかえって良くなかった。

右足をますます引きずるようになった。アルベルゲで出会った巡礼者の8割方が、足の裏にまめをつくり痛みに耐えていた。その点わたしは、毎朝出発前に先輩お勧めの軟こうを塗り続けたので大丈夫だった。

牛追い祭りや有名なパンブローナ、ワインの飲めるログロニーヨを通り、5月26日(木)ここまで288kmのブルゴスに到着。昨日は携帯電話を充電したまま忘れて、取りに戻るはめに。家内は、巡礼の中間報告にN神父さまに面会。まあ大丈夫そう。今日は小鳥たちが道案内をしてくれた。ここまでの道中、ブドウ畑や麦畑がとても奇麗だった。花々もきれいだ。泳がたい焼き君を口ずさみながら、レオン、アストルガを経て標高1440mのフォンセバドン峠を越える。

6月6日(月)小雨で霧の中ついに転んだ。左ひざを擦過しロザリオを失くす。変わりがなくメールする。N神父さまは、かなり受難のようだ。この日M神父さまが、緊急入院。ロザリオの本数を増やす。

11月、来々3月までNCCで放送され、撮影した映像と歌声はCMだけではなく天気予報の映像としても放送される。11月は毎週木曜日23時10分、12月から来々3月までは毎週月曜日25時15分から放送。

長崎の教会群とキリスト教関連遺産登録推進周知のCM 11月から放送



「いつくしみ深き 友なる イエスは」

10月6日、城山教会に小・中学生の美しい歌声が響いた。長崎文

化放送(NCC)のカメラの前で聖マリア学院の音楽クラブ「SCORE」のメンバー16人が聖歌を披露した。これは長崎県が10月から実施している「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進を周知するテレビCMのための撮影。CMは県内の教会をとらえた映像に子供たちの歌声が流れる構成で、

追いかけていなかった犬たちは疲れてしまつて追いかけるのをやめてしまいました。」

学校法人鎮西学院(諫早市)の創立130周年を記念する教育特別講演会が10月8日、ノートルダム清心学園理事長のシスター渡辺和子氏(写真)を講師に招いて諫早文化会館で行われた。

表題は「幸せのありか」。講師は、幸せはお金

では買えない、心の中に幸せを見つめる、心の魂を育てる」と語り、在校生、保護者、一般参加者ら合わせて1200人余の聴講者に、さわやかな感

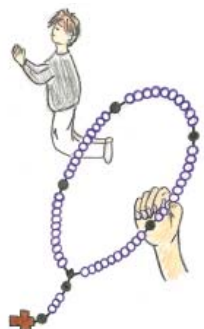
動を与えていた。

鎮西学院は1881年(明治14)メソジスト派キリスト教の宣教師ロング師によって長崎市東山手町の居留地に設立されたのが始まり。原爆投下時は竹の久保校舎が被災した。神を敬い、人を愛する生き方「敬天愛人」をスクールモットーとしている。

「わたしはぶどうの木、あなたたちはその枝である。」(ヨハネ15章5節) ワールドユースデーの期間中、参加者は司教さま方によるカテケーシスにあずかりました。東京教区の幸田司教さまのお話の中で次のようなお話がありました。

みことばにふれて

山口竜太郎神父(水の浦教会)



カット・江口貴裕くん(曾根教会小5)

「1匹の狼犬がウサギを見つめ走りだしました。他の犬はウサギを直接には見なかったけれど、仲間の犬が走りだしたので、一緒に追いかけて始めました。でも、ウサギをなかなか追いつくことができず、直接、ウサギ

追いかけていなかった犬たちは疲れてしまつて追いかけるのをやめてしまいました。」

うことを訴え掛けておられました。本物のウサギを見たのではなく走りだした犬は疲れてしまつて追いかけるのをやめてしまつた。では、どうすればよいのか。どうすればイエスさまに出会えるのか。答えを教

皇さまが教えてくださいます。「若者の儀においてイエスを『見る』こと、イエスを『出会う』ことを身に付けてください。」(ワールドユースデー教皇メッセージ4番)

「わたしは家族や周りの人に支えられながら、影響を受けながら、キリスト信者として生きてきている。でも、疲れてしまつた。では、どうすればよいのか。どうすればイエスさまに出会えるのか。答えを教

皇さまが教えてくださいます。「若者の儀においてイエスを『見る』こと、イエスを『出会う』ことを身に付けてください。」(ワールドユースデー教皇メッセージ4番)

「わたしは家族や周りの人に支えられながら、影響を受けながら、キリスト信者として生きてきている。でも、疲れてしまつた。では、どうすればよいのか。どうすればイエスさまに出会えるのか。答えを教

皇さまが教えてくださいます。「若者の儀においてイエスを『見る』こと、イエスを『出会う』ことを身に付けてください。」(ワールドユースデー教皇メッセージ4番)

皇さまが教えてくださいます。「若者の儀においてイエスを『見る』こと、イエスを『出会う』ことを身に付けてください。」(ワールドユースデー教皇メッセージ4番)

「みことばにふれて」のカットを募集します

本紙掲載の「みことばにふれて」のカット(挿し絵)を募集します。「みことば」や「祈り」からイメージしたものを絵画で表現していただき、ふるってご応募ください。応募いただいた中からいくつかの作品を広報委員会が選考し、本紙2012年2月号以降の「みことばにふれて」シリーズに掲載します。

対象 小・中学生 募集期間 2011年11月10日(木)~12月20日(火)必着
応募資格 はがき、またはA4サイズまでの大きさの用紙。描画材料は自由。
選考発表 本紙への掲載をもつてかえさせていただきます。
その他 住所・氏名・学年・所属教会を記入。
応募作品は1人1点までとし、原則返却しません。
提出・お問い合わせ先 〒852-8113 長崎市上野町10-34 カトリックセンター内
カトリック長崎大司教区広報委員会 電話095(843)3869

「対談 日本人に伝えたい聖書の世界」曾野綾子(作家)、矢吹貞人(さいたま教区終身助祭)「随想 アヴェ・マリアの祈り」岡立子(けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会会員)「東日本大震災が問いかけるもの」(リレー連載)「障害と信仰について語る」橋本宗明(前ロゴス点字図書館館長)「祈りのかたち」保坂ひろみ(白百合女子大学講師)「司祭館の静けさの中で」中川明(大阪教区司祭)

特別企画「鼎談 修道会・宣教会の刷新と使命」
年11回発行、1部525円(税込・送料別)年間定期購読料・国内6千円(税・送料込)。お申し込みは郵便局から年間定期購読料をお振込みください。

郵便振替口座記号番号 0017012184745 加入者名 オリエンズ宗教研究所 ※カトリック書店でもご購入できます。

お問い合わせ・お申し込み
オリエンズ宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-15
TEL 03(3322)7601
http://www.oriens.or.jp/

主の平安
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
24時間営業
五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

マイホームの美容と健康に!
(有) 山川 塗装
有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

墓地・納骨堂 分譲中
高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

なが さき せき ちよう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル
☎(095)862-2469

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備
(有) 小田 警備 保障
警備員募集!
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦

(医) 外尾 内科 医院
院長 ベトロ 外尾 明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4
TEL 0956-33-5557